室蘭MaaSプロジェクト「いってきマース」
【令和2年度実証を踏まえた今後の方向性】

本資料は令和2年度の実証事業の結果を踏まえ
令和3年度以降に取り組むべき方向性を
市民の皆様にわかりやすくお伝えするための資料です。

令和3年8月　室蘭市

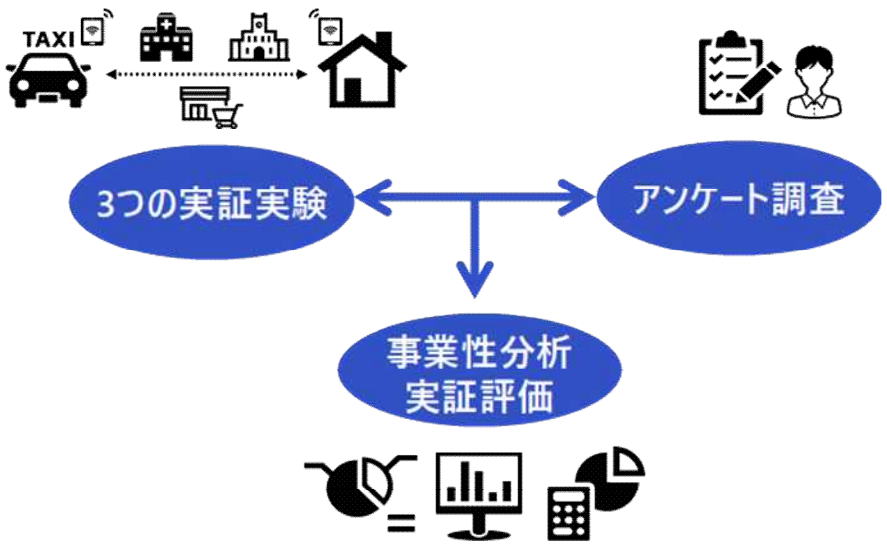
目次

1. 令和2年度の実証概要
2. 令和2年度実証から見えた課題と今後の4つの方向性
3. ① 移動とサービスの組み合わせで地域活性化
4. ② 交通事業者の生産性向上
5. ③ 高齢者でも使いやすい移動サービス
6. ④ 持続可能な事業採算性・ビジネスモデルの検討
7. まとめ

令和2年度の実証概要

令和2年度の実証事業は、**買い物や通院等の移動の不便を解消するため、タクシーを活用した近距離移動サービスの導入可能性を調査**するもの

※実証事業は、北海道経済産業局の「令和2年度北海道西胆振地域におけるスマートモビリティの実証実験及び事業性分析等事業」として実施



①買い物送迎実証

② 学生相乗り実証

③ 病院送迎実証

令和2年度実証から見えた課題と今後の4つの方向性

【実証実験及び市民アンケート調査からみた室蘭市における課題】

- 運転免許保有率と自家用車保有率の高さから公共交通利用の意識が希薄

しかし…

➢ 今後の人口減少と高齢化の速度、公共交通事業者の担い手不足などを踏まえると、公共交通の維持は必要不可欠であり、公共交通の利便性向上と効率化が望まれます

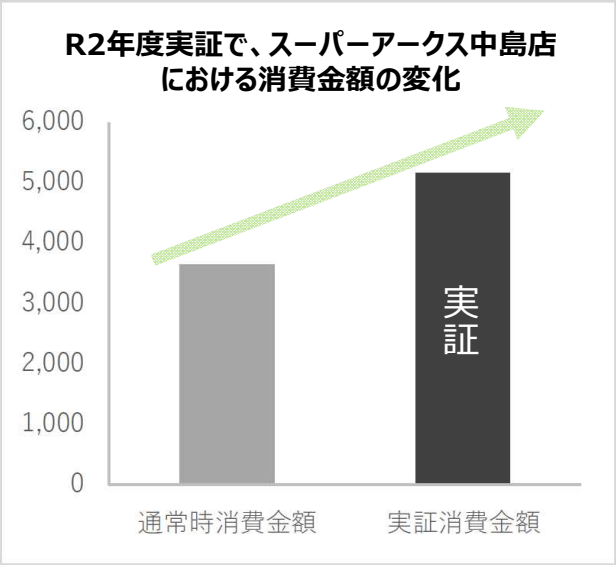
実証実験や市民の皆様との意見交換などを通じ、
既存の公共交通や新たな交通サービスにおける市民の認知向上が必要

【実証事業を踏まえた今後の方向性】

① 移動とサービスの組み合わせで地域活性化
② 交通事業者の生産性向上
③ 高齢者でも利用しやすい移動サービス
④ 持続可能な事業採算性・ビジネスモデルの検討

4つの方向性を軸に、実証実験を通じて市民の意識醸成を図りつつ、新たな交通サービスの導入を進め、公共交通の再構築を図ります。

① 移動とサービスの組み合わせで地域活性化



【R2実証からみた消費動向の変化】

- 実証時の消費金額は、通常時の年代別1回あたりの消費金額に比べ約30%増加

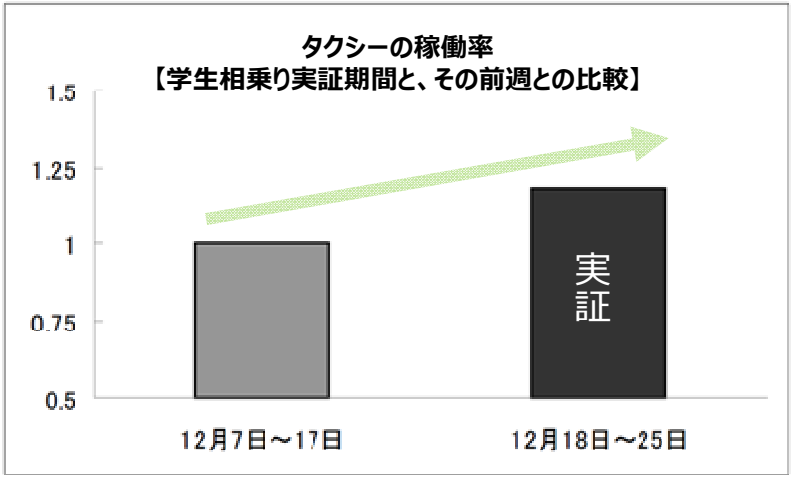
【実証参加者のご意見】

- タクシーは便利だが運賃が高く、毎回利用するのは経済的に厳しい
- 冬は足下が悪いので助かる
- 冬に利用したい

etc…

- **冬期は買い物外出頻度が減少するものの、天候や季節に影響されないドアツードアの移動手段であれば、移動の活性化につながる可能性があります。**
- **移動の活性化は、消費活動の活性化にも寄与する可能性があり、地域経済の活性化が期待できます。**

② 交通事業者の生産性向上



【R2実証からみたタクシー稼働率の変化】

- 学生相乗り実証期間である週のタクシー営業本数と、その前週のタクシー営業本数を比較すると、約20%増加

【タクシードライバーの変化】

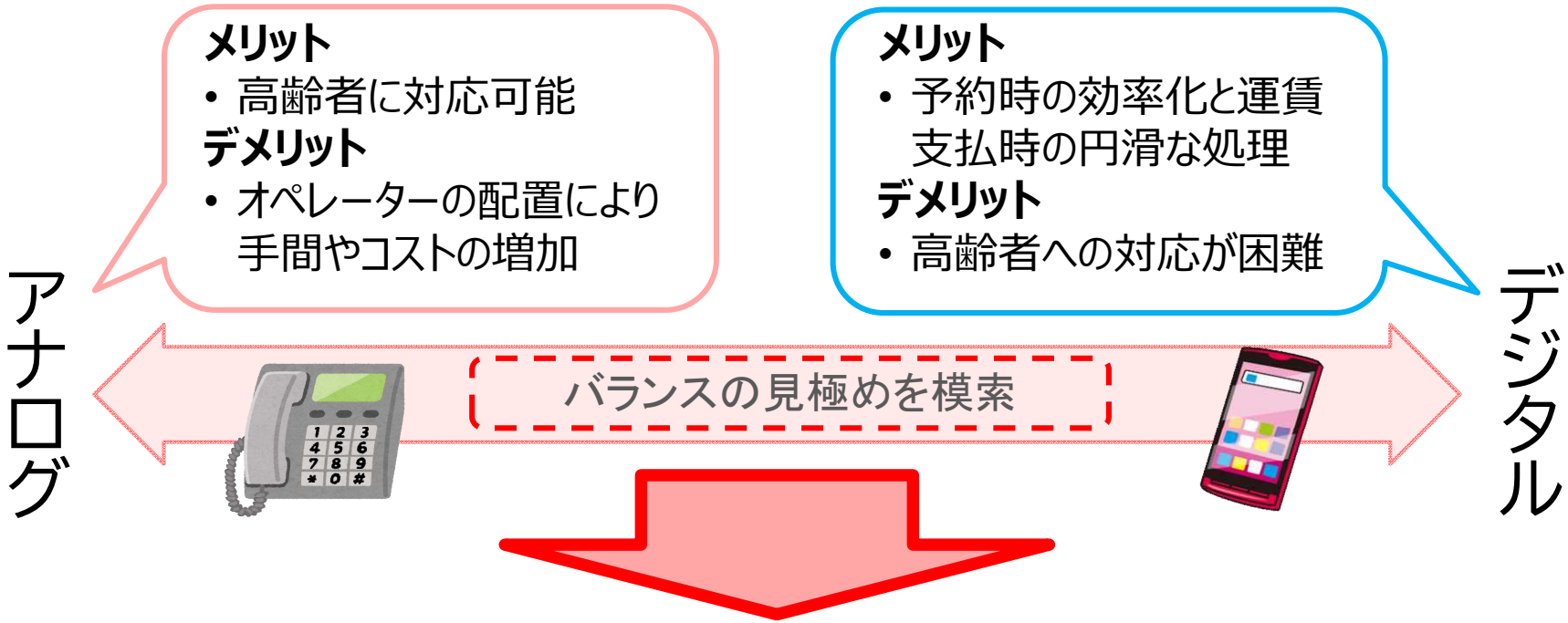
- ドライバーのデジタルサービスへの対応が危惧されていたが、アプリ操作のフォローによりMaaSアプリ操作を数日で習得

- 普段タクシーを利用しない層が、相乗りによって料金が安くなることにより、新規のタクシー利用が期待でき、タクシーの生産性(稼働率)が向上する可能性があります。
- タクシードライバーがデジタルサービス(スマホ等)を使いこなすことにより、いわゆる「流し」や客待ちをせずとも、お客さんを確保することができ、生産性(効率性)が向上する可能性があります。

③ 高齢者でも使いやすい移動サービス

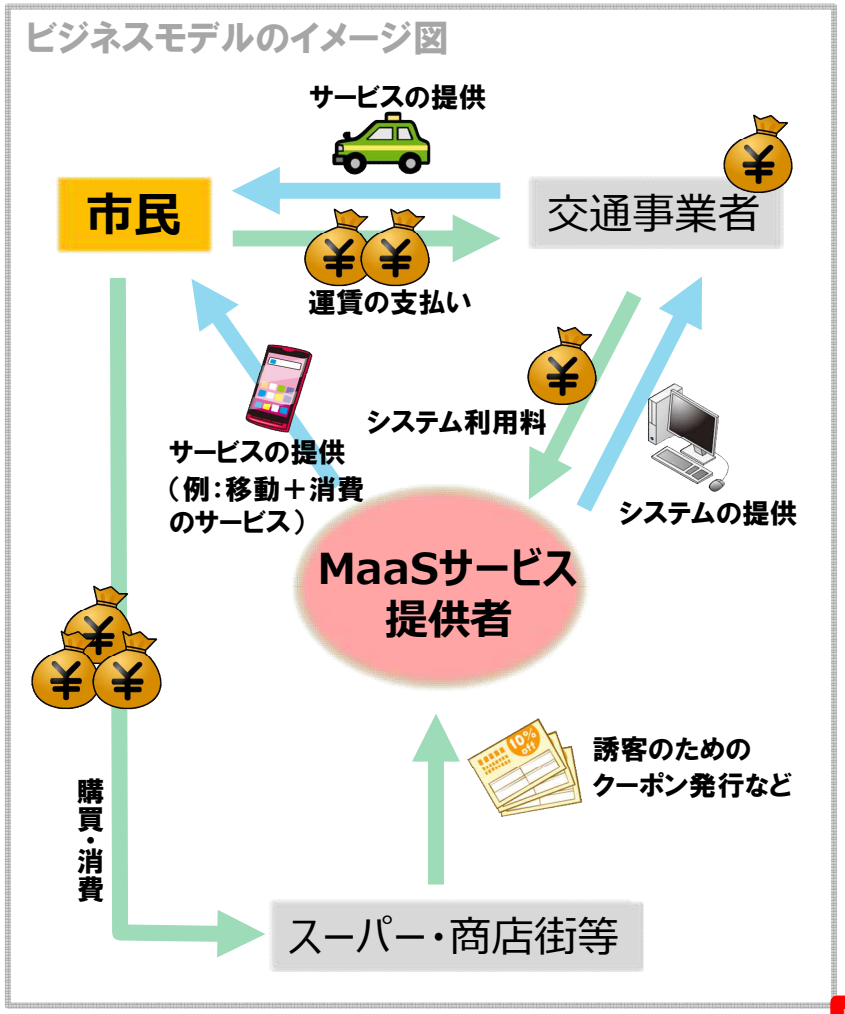
【市民アンケートからみたデジタルデバイスの許容性】

- 室蘭市で75歳以上におけるスマートフォン利用率は3割以下
- キャッシュレス決済の必要性については、若年層は必要性を感じているものの、高齢になればなるほど必要性を感じていない



- **サービスの効率化（コストを安くする等）にはデジタル技術活用、特にスマホなどによるサービス提供が望ましいが、高齢者の利用実態を踏まえると、高齢者でも使いやすいようにするため、デジタルだけではなく、アナログを組み合わせた仕組みも必要です。**

④ 持続可能な事業採算性・ビジネスモデルの検討



【市民（相乗りサービス利用者）】

- 相乗りで運賃が安価となる可能性があります。
- 一方で、相乗りへの抵抗感も懸念されるため、周知等の工夫が必要です。

【交通事業者】

- 相乗りによる新規利用が運賃収入となります。
- 一方で、システム手数料やシステム使用環境整備・乗務員への教育コスト等が新たな支出となります。

【MaaSサービス提供者】

- システム利用料や広告料などが収益

【スーパー・商店街等】

- 相乗りサービス利用者の来店及び購買により売上増が期待できます。
- さらなる誘客やサービス連携に向けて、お得なクーポン発行などインセンティブの付与なども考えられます。

- 移動費用以外にもシステム維持経費などが必要であるほか、利用者を増やす取り組みとして、色々なサービス（例えばスーパーなど）と結びつくことで、広告やクーポン発行などの可能性があり、採算性の向上が期待できます。

まとめ

【室蘭MaaSプロジェクトの目的】

- 既存の交通手段とICT活用の組み合わせによる「誰もが移動に困らない街」の実現
- 地域の幹線・支線の公共交通ネットワークの充実

【目的を実現するための取り組み】

- タクシーを活用した近距離移動サービスの充実
- バス路線の再構築による、交通事業者の役割分担と最適化

- **公共交通の需要に合わせ、路線バスの運行形態見直しや、オンデマンド交通への転換検討など、人口減少やニーズに合わせた交通体系の構築により目的の実現を図る**
- **さらに、令和3年度以降も、市民の皆様や交通事業者、地域企業など、様々な関係者と意見交換や議論を重ねながら、推進していくことが重要**